臺灣日日新報（金曜日）　第一万三千五百二十一號　昭和十二年十一月十二日　臺灣日日新報（第二版）（原稿配達）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣昌新報夕刊
十一月十日
編輯兼發行人 佐々木 東
臺北市榮町四丁目廿番地 臺灣日日新報社
大阪市西區阿波堀通一丁目 大阪支局
東京市麹町區有樂町一丁目 東京支局

浦東へも上陸

陸戰隊こそ陸軍部隊

【上海十一日發同盟】陸軍津田部隊は海軍陸戰隊の先導の下に十一日午前四時頃郵船倉庫附近より浦東側に上陸を敢行し浦東側の敗殘兵を掃蕩しつつ南支攻撃のため西南方に向つて猛進中である

【上海十一日發同盟特急發表】第一、戰鬪經過　一、十一日午前十時現在
一、海軍陸戰隊は本黎明より浦東側に上陸を開始し陸軍部隊と協力、敵を清掃中なり
二、海軍航空隊は南市の殘敵に對し攻撃を敢行中なり

一兵も餘さず清掃

【東京十一日發同盟】津田部隊の先頭となつて十一日早朝浦東に上陸を敢行した陸戰隊は吉田中佐指揮の第一線部隊と協力し浦東に殘存する敵殘兵に對し掃蕩戰を進行せしめ午前十時二十分早くも浦東對岸の白蓮涇に到達し南北兩路より朗報した。この上陸點よりの浦東上陸には上海戰開始以來最初のことであり、これに依り久しい間邦人居留地區を惱ました浦東の敵に一兵も餘さず掃蕩された訳である

南市の殘敵屏息

三方から攻撃されて

【上海十一日發同盟】南市敗殘兵に對し我軍は西方より北部部隊が日暉路クリークを挾んで東方よりは津田部隊及び陸戰隊が浦東側から銃砲口を向け、又後方より海軍航空隊が爆撃機で其の退却は單に時間の問題となつた

南翔の南端に肉薄

【江橋鎭にて十日發同盟特派員】安達部隊は小南翔前面の敵陣地に對し十日午前九時より總攻撃を開始したが敵は頑強に抵抗を續けたので安達部隊は一時攻撃を中止し戰車隊の協力を得て午後一時より再び攻撃を開始した

【洛陽橋十一日發同盟特派員】十一日敗退の敵を追つて南翔に向け攻撃前進中の淺間、和知兩部隊は夜襲戰を行ひつつ江橋鎭西南方二粁の沙河浜、福田寺を次いで十一日午前八時飛行隊の爆撃と呼應して猛攻に移り南翔南端に肉薄した

江橋鎭へ一番乘り

和知部隊に從軍して

【江橋鎭十日發同盟特派員】（前略）敵が南翔鎭の心臟部と賴んで頑張つた抵抗を續けた國際公園攻撃戰が始まつた、記者は十日午前十一時半頃の和知部隊に從軍し一番乘りを行つた、石橋から江橋鎭に通ずる一本道を進む、江橋の北は河も鐵橋から飛んで來る敵の砲丸がヒユン、ヒユンと空をかすめるが何かこれ今日だけは餘よい會に際會するだ、左の小川を渡れば十二米位のクリークがある、一昨夕ゲン兵隊百數十名が敵前渡河を行つた模が見える、この小川とクリークとの間に敵戰地がある、三百に過られた鐵筋式の鐵鋼も今は燒茶々だ、之も敵砲撃に頭を突込んだり鐵鋼に引つかかつたりした敵の死體が累々と折り重なり沐草を鮮紅に染めて無殘の姿を曝してゐる、クリークを鐵渡橋に變へて渡つた、敵は包み切れぬ程に殘つてゐるのだ、初め部隊は十二米位のク

日章旗を先頭に——輝く太原入城式

戰史に燦黃金の一頁

伊國王御誕辰を壽ぎ日伊防共協定を祝福

總督、軍司令官も臨席し伊國領事がレセプション

日伊防共協定を祝して台北駐在伊太利名譽領事アランゼロ・デル・レ氏主催の伊國王ビットリオ・エマヌエーレ三世御誕辰の祝宴は伊國領事館で午前十一時半から開催された、定刻、台北駐在英國、中華の各國領事及び其他の外人、軍部より古莊參謀長、吉冨經理部長、警務部長、古野總督府警務局長、渡邊民政部長、藤山台北州知事、石塚交通局總長、今川基隆築港事務所長、伊藤總督官房主事、共他官民主要者四十餘名が參集、同四十分頃より開催されたが、定刻、台北駐在伊太利名譽領事アランゼロ・デル・レ氏主催の伊國王ビットリオ・エマヌエーレ三世御誕辰の祝宴は伊國領事館で午前十一時半から開催された、定刻、台北駐在英國、中華の各國領事及び其他の外人、軍部より古莊參謀長、吉冨經理部長、警務部長、古野總督府警務局長、渡邊民政部長、藤山台北州知事、石塚交通局總長、今川基隆築港事務所長、伊藤總督官房主事、共他官民主要者四十餘名が參集、同四十分頃より開催されたが

家庭と婦人

一長あれば一短あり！ 暖房具は何がよいか

(下) 衛生と經濟の點を考へて選ぶ事

煉炭ストーブ

煉炭ストーブには煙突のないものとつけてあるものとあります。ないものは相當に一酸化炭素を發生いたします。煙突をつけてあるものは室内に發散して發生した「ガス」の發散はなく極めて衛生的のもので且つ暖氣にありますが方々の部屋に持ち廻ることが出來ぬ不便があります。

石炭ストーブ

石炭ストーブは煉炭ストーブと大差ないものでありますが、取扱ひに關係を發生して盤の上には用ひられませんが、洋間などに備へれば、他のものより温かで、經濟的でもありませう。

その外に薄型の石油ストーブ等があり取扱ひが簡單で方々の部屋に持ち廻るといふことの便利がありますが發生する「ガス」が部屋に滯れる缺點があります。然し發散ガス（一酸化炭素）の量は（部屋の容積の温度を定める）

	一時間千カロリー燃燒熱の發生	燃燒千カロリーの發生を消滅して部屋を温める温度
火鉢	三五三	四四・〇
煉炭ストーブ（煙突なし）	九九	四・五
石炭ストーブ（煙突つき）	〇	〇
瓦斯ストーブ（煙突なし）	五〇	二・六
石油ストーブ	五三	〇・九
瓦斯ストーブ	〇	〇

右の表にあるやうに、煙突のついたものと瓦斯ストーブには發散ガスも一酸化炭素も部屋の中に發見しませんが、その他のものでは僅少の「ガス」を發散します。最少は石油ストーブでガスストーブも少量に一酸化炭素を發生してゐます。

火鉢は他のものに比し十倍も餘計に一酸化炭素が發生してゐます。

電氣ストーブ

瓦斯ストーブは「ガス」を發生することがなく衛生的ですが、非常に經濟で且つ暖房の效果が充分であります。

其の以上の暖房具につきその發生ガスの程度、料金等を調べてみませう。

一時間千カロリーの熱を發生するに要する燃料

	一時間の費用
煉炭ストーブ（煙突なし）	一・五
石炭ストーブ（煙突つき）	〇・六
瓦斯ストーブ（煙突なし）	一・二
石油ストーブ	一・二
瓦斯ストーブ	〇・三

煉炭ストーブは「ガス」を發生することがなく衛生的ですが、非常に經濟で且つ暖房の效果が充分であります。

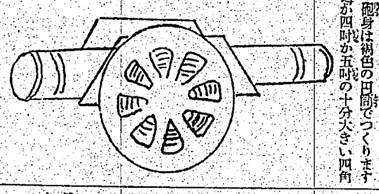
其の以上の暖房具につきその發生ガスの程度、料金等を調べてみませう。

一時間千カロリーの熱を發生するに要する燃料の價

	燃燒千カロリーの熱を消滅して部屋を温めた温度
火鉢	一・四
煉炭ストーブ（煙突なし）	一・六
石炭ストーブ（煙突つき）	一・二
瓦斯ストーブ（煙突なし）	〇・八
石油ストーブ	四・五
瓦斯ストーブ	〇・二

右の表にあるやうに、煙突のついたものと瓦斯ストーブには發散ガスも一酸化炭素が發生してゐます。

それから、部屋に暖めることは火鉢が最も經濟に暖めるので次にガスストーブであります。經濟に比例して一番よく暖まるのは火鉢と瓦斯ストーブで煙突のないものは惡いです。瓦斯ストーブは最高價で他のものに比し七、八倍の價格であります。



野砲

圖をみてマッチの空箱で切つて砲身をつくりこれをのせて下さい。砲身は洋紙の四圓つくります辺が四吋が五吋の十分大きい四角い紙から作るとよろしい。表ろい紙の箱は大砲の組りに色付けるに代りにこれを卷して使ひます。車の關係は、四紙をきりぬいたり、又鉛筆から作れませう、鉛丸は鉛筆の軸士から作ります

大砲

これは作るのに一寸苦労がいります。

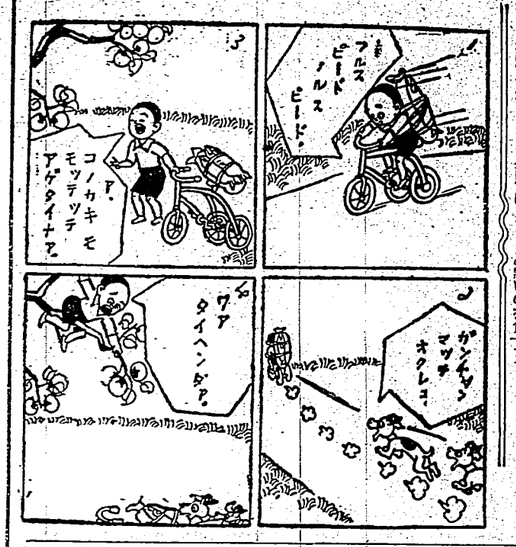
家庭メモ

◇肉の煮方◇

肉を煮ると二〇%から五〇%位の固形物を失ひます。これは蛋白質グリューゲン、肉エキス等が溶けて出るからです。

そこで、これを料理にどう調用するかが判つたわけで、スープを作るには肉は冷水から入れて暖かに煮てゆくのがよく、沸騰してから肉を入れたのでは肉の表面の蛋白質が固るので、内部からの流出がなくなることになり、反對に肉そのものを美味にするには沸騰してから入れるのがよいことになるので、上肉のフテキやカツレツは表面で短時間に煮ます。中肉の煮込にはタタき煮るか挽肉にするのがよろしい。下肉は煮て一緒にスープにします。

ら、白粉は煙突なしに、手につけておいて、暫くして手加減をします。白粉は暖たものを用ひ、冷たいものを用ひません



東西風邪藥較べ

いはゆる民間療法としての梅干の黒燒は日本獨特

風邪がはやつてゐます、風邪はたゞの風邪といふ位で、そう油斷のならないものですが、ちよつとの風邪引きの場合、次の處方を試みて見て、それで駄目ならお醫者樣へ——といふ次第です。風邪を引けば、體の働きが鈍くなり、二圓の醫藥を生じるわけですから、一

まづ發汗させて、血液の循環をよくしなければなりません。

処で、昔から風邪引きには葛根湯（カッコントウ）などといひますが、買うに、これは高價、さうかと思つて、醫藥價に出て來る處面では、ウドンの熱いのを食べて寢てしまふ——といふ方法、風邪は大體これで癒ります。

然しこれは、なんぞといふ程極平民的な療法でもあるやうですが、昔から風邪藥をくらべて見ると、さうとんな處です。

日本

玉子酒 上等の日本酒を五勺位鍋（なるべくユキヒラのやうな厚鍋がいい）に入れ、これを煮きつたせると、そこでアルコールが蒸發して來る、そこでマッチで點火すると、紫色の焰を發して燃える。再二度みてから、玉子を割込みよくかき混し、砂糖を適當に加へて、熱い中に飲んで寢てしまふのです。

西洋

グラスに二杯のウヰスキーをコップに移し、砂糖を加へ、玉子の黄身だけを入れよくかき混ぜておいて寢際にそれを飲んで寢る。

前車

これは風邪の際に限らず、平素の場合でも、その他も同色を施して、體身には適ちようとよいです。

精力絶倫

夫婦愛愈深く若返る

日本と獨逸の醫學博士で性慾學の大家として最名な羽太鋭治先生は、研究を年これなら必ず滿點無缺の目的を達する耐久強精の秘藥を發明された。

此れをホルモンと一緒に服めばホルモンの効力を十倍位に強め、老衰千古の絶倫力藥と一處に服めば効力が十數倍強力となつて效く特徴があるので之れを醫學の最新法で調合して發賣されたのが

強精 強腦 強壯藥

キング・オブ・キングス

である。精力絶倫と云はれる驚異な動物の交尾期のホルモン數個が生きたまま封じ込める。これに最新の藥と云はれる強壯藥數種を組合せ秘傳の全能を發かせてあるので、從來のホルモン劑とは比較にならぬ効果は實に效力の實驗で驚くばかり現はれてゐる。不能者失望者、夫婦和合の出來ず人生の快樂に缺陷ある人は直に本劑の服用で一足飛びに華麗な春が訪れます。

二十臺から七十臺迄必要

醫學博士 羽太鋭治

六十で精力絶倫の人もあれば卅百で既に耄老無能の人がある。それは一體何な原因であるか。生れつきと諦めるのは愚い。生ホルモンだけでも自由に出來ない。さに何か補助なものがあるに違ひない。余は專門家に人間を初めらゆる動物の生殖生活に就て研究する第十數年、遂に實驗の結果此の絶倫藥を發明した。これを至極として若き壯年の人も老衰の人も此の藥を用ひて一日も早く元氣になり、元氣では眼鏡もいらずに新聞が讀める。脈も洗濯が出來て來て要もの

國定忠次 (103)

（第十一回）

長谷川伸作
岩田專太郎畫

酌取りお鯵（一）

寛保五年が終って六年、二月朔のいい陽気がめぐり来たつた、しかし花は咲いてもその年は良くない。

ここ十數いくの國作と云ふ能無しでも、陰言に縁りつけて物を言ふ世間の人のやうには、世の終りが近づいたかの如く心を閉はせ、國境に行勝つ強盗がおともすると訪れられさうになつてゐる、が、御上はこの後の幸にくらべてまだまだ淡々易かつた、大關中八郎が大阪氏の乱を治めたのはこの寛保の秋、氏を受けたのは翌年一月である、國定忠次が八州の旅風を首領として小勢ながら二百を率てゐた、国定忠次の名前は首領者だが、内へはひらず首領者は女房でない、万事の指揮は、或る時は表に立ち或る時は陰にゐる、今市はどこまでも子分の縄張し、実名はおろか国定が外につかつてゐる名すら殺へすにゐる。

文蔵が八寸村の伊八に

「又かい世見」

「うんざだ」

「何しろ瞼は磯つたよ、今度、今市さんが来たら民さんにうンと叱言をいつて瞼はなさやならねえ。なあ伊八、お前塾も気をつけてくれよ。昌村の伊三郎が死んだあの一家は見殺したが、その代り、方方に、何に彼だと名乗りをあげた一家が三四ヲもある。中でも常ッぱい事を仕出来し腹出さう野郎さうと猫撫つてゐる吾の宗蔵乾弟が、手を携げてゐる限へは容易いてはいけねんだ。相手が相手だ、何を仕掛けられるか知れやしねえから、瞼も気をつけるからお前達も気をつけて、民さんを王村へやらねんやうにしてくれ」

「うン気をつけよう、昔穴、保顧坊主ね、あいつが居つから民さんがあゝなつたんだ、あいつさへ居なけりやいいんだ、一瞬、追ツ拂ふか、瞼鰯か何かして」

「さうは行かねえ、あいつは旅先で親分に助けてやつた事があるんだといふし、今市さんが親分の為に喉度なる瞼だといつて連れてきたんだから、追ツ拂ふ訳には行かねえそ」

「あの坊主、気はいい奴だが無鉄砲で時局だからいけねえや、瞼に毛のねえ時分はあゝやなかつたが、賭場荒しになつてから殊ムひどく殺りやがつた」

「本當に、この頃やや殺瞼さんといつたんでは遊郭をしれた」

「瞼鰯か、酒水の瞼鉄、やよいといい名だ」

生れた名が用につけ、酒水の瞼鉄の瞼は、無博識等の上からい

「万事がさういふ方なのさ」

とグレイは遊郭しました。

カナ文字ニュース

△上海戦ノ ハッタン トナツタ 陸戦隊 大山大將戦死ノ 現場ハ 十一月九日 チャウンリャウ サレマシタ

△大上海ノ クワンゼンナ ハウキニ セイコウシタ皇軍ノ イキハ タイヘンナモノデスガ 十日午前九時半 各國ノ司令官ハ 松井司令官ヲ ハウモン 戦勝ヲ シユクフクシ 戦跡ヲ シサツ シテワガ武勲ニ カンタン シマシタ

銀幕美男子ロンドンを騒がす

美男子ロバート・テーラーが来ていふので一目でも彼女見ようと駅前にファンです、駅頭警備まで出動して警戒に当つたさうですが、英国では映画俳優が起したのは初めてとて各方面の話題となつて居ます（倫敦特電）

出迎へのテーラー・ファン

ハリウッドの友情物語

ハリウッドに限つて実しい主従のユニイクな関係がみられます、これらのコムビで一番よく知られてゐるものの一つはジョージ・ラフトとマック・グレイでグレイは「殺人」とラフトの友情関係は知られてゐます。

彼らの友情はラフトがダンサーであつた後で映画界に身を投じた時に始まりました、グレイは脚質演出者の一團のマネージャーで、ラフトが彼のマネージャーになるやうに頼んだ時、民選会でその脚色演出者から紹介しました。のでしたグレイは「殺人」といふタイトルを得てゐます、たのいはれはラフトが或日ひよつこり訪れ脚色家のマネージャーが彼の従者と友人連中に吹聴した事からです、スターをみようとやつて来る人々とラフトの間の紹介の役を勤めてゐるうちにグレイは大して儲きません、最近ニューヨークとハリウッドの間の列車でラフトは彼の隣の中に最も親しい人々と共に「殺人」といふ名を与へられてゐます。

日露戦争當時の活動寫眞（下）

明治二十七年六月一日、場所は浅田圓覚の圓朝ばなしといふ活動小屋で、文蔵は民衆より歓迎の割の拍手に迎つて行くのを背後にてゐる。伊八は文蔵程でなく「なあ親分、歓迎さんの忠実振分が博徒なんだから、民さんがこの道の者になつても助言いへめえ良いちやねえか、皆人から好きでなる分には」

「さうは行かねえ、親分が留守のうちに民さんがうつかり博徒になつたとは、顔が出来ねえと」

「一體、あの坂手がいけねんだ民さんに接ッぽど気に合ふとみえるんだね。どこへでも二人で行くへすになる。

文蔵が八寸村の伊八に

「又かい世見」

「うんざだ」

「何しろ瞼は磯つたよ、今度、今市さんが来たら民さんにうンと叱言をいつて瞼はなさやならねえ。なあ伊八、お前塾も気をつけてくれよ。昌村の伊三郎が死んだあの一家は見殺したが、その代り、方方に、何に彼だと名乗りをあげた一家が三四ヲもある。中でも常ッぱい事を仕出来し腹出さう野郎さうと猫撫つてゐる吾の宗蔵乾弟が、手を携げてゐる限へは容易いてはいけねんだ。相手が相手だ、何を仕掛けられるか知れやしねえから、瞼も気をつけるからお前達も気をつけて、民さんを王村へやらねんやうにしてくれ」

「うン気をつけよう、昔穴、保顧坊主ね、あいつが居つから民さんがあゝなつたんだ、あいつさへ居なけりやいいんだ、一瞬、追ツ拂ふか、瞼鰯か何かして」

「さうは行かねえ、あいつは旅先で親分に助けてやつた事があるんだといふし、今市さんが親分の為に喉度なる瞼だといつて連れてきたんだから、追ツ拂ふ訳には行かねえそ」

「あの坊主、気はいい奴だが無鉄砲で時局だからいけねえや、瞼に毛のねえ時分はあゝやなかつたが、賭場荒しになつてから殊ムひどく殺りやがつた」

「本當に、この頃やや殺瞼さんといつたんでは遊郭をしれた」

「瞼鰯か、酒水の瞼鉄、やよいといい名だ」

生れた名が用につけ、酒水の瞼鉄の瞼は、無博識等の上からい

「万事がさういふ方なのさ」

とグレイは遊郭しました。

ハリウッドに限つて実しい主従のユニイクな関係がみられます、これらのコムビで一番よく知られてゐるものの一つはジョージ・ラフトとマック・グレイでグレイは「殺人」とラフトの友情関係は知られてゐます。

彼らの友情はラフトがダンサーであつた後で映画界に身を投じた時に始まりました、グレイは脚質演出者の一團のマネージャーで、ラフトが彼のマネージャーになるやうに頼んだ時、民選会でその脚色演出者から紹介しました。のでしたグレイは「殺人」といふタイトルを得てゐます、たのいはれはラフトが或日ひよつこり訪れ脚色家のマネージャーが彼の従者と友人連中に吹聴した事からです、スターをみようとやつて来る人々とラフトの間の紹介の役を勤めてゐるうちにグレイは大して儲きません、最近ニューヨークとハリウッドの間の列車でラフトは彼の隣の中に最も親しい人々と共に「殺人」といふ名を与へられてゐます。

とラフトはいつてゐます。

「彼はマッサージ師なんだぞ、それに屈はれてから一度も僕をマッサージしたことがないんだよ、先月僕は彼が自動車の運転を誤つたらすぐ車を買つてやるといつたら彼はどうしたかね、彼は僕の車で勝手に出したのはよかつたが、城る建物の中に突入したんだよ」

でも彼の注意に物ともせず、ラフトはどんなことがあつてもグレイを

今週の映画

時代から協力者の一人として活躍してた有名な飛行家アイリアム・ゲアン・ドイゼンと共に飛行機を結びグーリー・クーパートジョニルマクリイを主演で「大西洋横断飛行」を映画化すべくドー・ハワードと協力で脚本作製に急がせてゐる、現在のプランでは撮影が来春早々一般読者の興味の焦点となつてゐるリンドバーグ大佐の飛行に関する部分を除いて他の部分は殆んど完成せしめる筈だと云ふ、尚グーリー・クーパーとジョエル・マクリイの両人は同社の第一回大西洋横断飛行に記念として製作したと

フオツクス映畫 ロマンス乾盃

九月より國際封切

ジエツシイ・ラスキイがフオツク

映畫ニュース

★主役級スターを 松竹が募集

松竹京都は大々的に新人スターから移植し主演級スターにまで養成する事となり昌磨的条件募集するが、右に付き縄山所長は曰く「幕末步兵隊」の配役未步兵隊」は本格劇、北見恭二郎にからくりコンビ、稲葉義男、加川嘉太郎の配役で近日開始する

金演休の断水対策

映畫化

サミユエル・ゴールドウイン・プロでは米アメリカ飛行協会の推薦

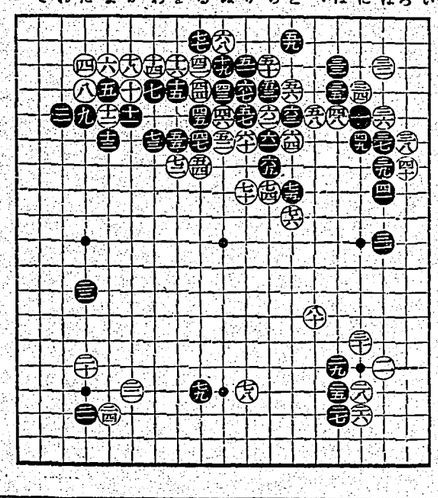
「大西洋横断飛行」の

有段者十人抜碁戦（第二次戦）（七局の二）

本社主催

森同一氏勝　先番二段　森一（四目半出し）石

先互二段　木山糸次郎



●四二は八　○四二ぬ四
●四一ろ三　○四四ろ四
●四五ろ五　○四六ぬ五
●四七ろ六　○四八ほ五
●四九に六　○五〇も三
●五一り二　○五二ぬ六
●五三ち四　○五四ろ七
●五五ほ六　○五六ろ八
●五七り五　○五八へ五
●五九と六　○六〇ち六
●六一ち六　○六二ち五
●六三と五　○六四と六
●六五も七　○六六ち七
●六七り四　○六八ろ八
●六九ち五　○七〇り八
●七一ち五　○七二ち四
●七三お六　○七四ち八
●七五と八　○七六ち九
●七七り一二　○七八へ一三

●六六ち七　○六七ち六
●六八ち五　○六九ち四
●七〇ち八　○七一ち九
●七二ち六　○七三ち七
●七四ち九　○七五ち八
●七六ち一〇　○七七ち一一
●七八ち一二　○七九ち一三
●八〇ち一四　○八一ち一五
●八二ち一六　○八三ち一七
●八四ち一八　○八五ち一九
●八六ち二〇　○八七ち二一
●八八ち二二　○八九ち二三
●九〇ち二四　○九一ち二五
●九二ち二六　○九三ち二七
●九四ち二八　○九五ち二九
●九六ち三〇　○九七ち三一
●九八ち三二　○九九ち三三
●一〇〇ち三四　○一〇一ち三五
●一〇二ち三六　○一〇三ち三七
●一〇四ち三八　○一〇五ち三九
●一〇六ち四〇　○一〇七ち四一
●一〇八ち四二　○一〇九ち四三
●一一〇ち四四　○一一一ち四五
●一一二ち四六　○一一三ち四七
●一一四ち四八　○一一五ち四九
●一一六ち五〇　○一一七ち五一
●一一八ち五二　○一一九ち五三
●一二〇ち五四　○一二一ち五五
●一二二ち五六　○一二三ち五七
●一二四ち五八　○一二五ち五九
●一二六ち六〇　○一二七ち六一
●一二八ち六二　○一二九ち六三
●一三〇ち六四　○一三一ち六五
●一三二ち六六　○一三三ち六七
●一三四ち六八　○一三五ち六九
●一三六ち七〇　○一三七ち七一
●一三八ち七二　○一三九ち七三
●一四〇ち七四　○一四一ち七五
●一四二ち七六　○一四三ち七七
●一四四ち七八　○一四五ち七九
●一四六ち八〇　○一四七ち八一
●一四八ち八二　○一四九ち八三
●一五〇ち八四　○一五一ち八五
●一五二ち八六　○一五三ち八七
●一五四ち八八　○一五五ち八九
●一五六ち九〇　○一五七ち九一
●一五八ち九二　○一五九ち九三
●一六〇ち九四　○一六一ち九五
●一六二ち九六　○一六三ち九七
●一六四ち九八　○一六五ち九九
●一六六ち一〇〇　○一六七ち一〇一
●一六八ち一〇二　○一六九ち一〇三
●一七〇ち一〇四　○一七一ち一〇五
●一七二ち一〇六　○一七三ち一〇七
●一七四ち一〇八　○一七五ち一〇九
●一七六ち一一〇　○一七七ち一一一
●一七八ち一一二　○一七九ち一一三
●一八〇ち一一四　○一八一ち一一五
●一八二ち一一六　○一八三ち一一七
●一八四ち一一八　○一八五ち一一九
●一八六ち一二〇　○一八七ち一二一
●一八八ち一二二　○一八九ち一二三
●一九〇ち一二四　○一九一ち一二五
●一九二ち一二六　○一九三ち一二七
●一九四ち一二八　○一九五ち一二九
●一九六ち一三〇　○一九七ち一三一
●一九八ち一三二　○一九九ち一三三
●二〇〇ち一三四　○二〇一ち一三五
●二〇二ち一三六　○二〇三ち一三七
●二〇四ち一三八　○二〇五ち一三九
●二〇六ち一四〇　○二〇七ち一四一
●二〇八ち一四二　○二〇九ち一四三
●二一〇ち一四四　○二一一ち一四五
●二一二ち一四六　○二一三ち一四七
●二一四ち一四八　○二一五ち一四九
●二一六ち一五〇　○二一七ち一五一
●二一八ち一五二　○二一九ち一五三
●二二〇ち一五四　○二二一ち一五五
●二二二ち一五六　○二二三ち一五七
●二二四ち一五八　○二二五ち一五九
●二二六ち一六〇　○二二七ち一六一
●二二八ち一六二　○二二九ち一六三
●二三〇ち一六四　○二三一ち一六五
●二三二ち一六六　○二三三ち一六七
●二三四ち一六八　○二三五ち一六九
●二三六ち一七〇　○二三七ち一七一
●二三八ち一七二　○二三九ち一七三
●二四〇ち一七四　○二四一ち一七五
●二四二ち一七六　○二四三ち一七七
●二四四ち一七八　○二四五ち一七九
●二四六ち一八〇　○二四七ち一八一
●二四八ち一八二　○二四九ち一八三
●二五〇ち一八四　○二五一ち一八五
●二五二ち一八六　○二五三ち一八七
●二五四ち一八八　○二五五ち一八九
●二五六ち一九〇　○二五七ち一九一
●二五八ち一九二　○二五九ち一九三
●二六〇ち一九四　○二六一ち一九五
●二六二ち一九六　○二六三ち一九七
●二六四ち一九八　○二六五ち一九九
●二六六ち二〇〇　○二六七ち二〇一
●二六八ち二〇二　○二六九ち二〇三
●二七〇ち二〇四　○二七一ち二〇五
●二七二ち二〇六　○二七三ち二〇七
●二七四ち二〇八　○二七五ち二〇九
●二七六ち二一〇　○二七七ち二一一
●二七八ち二一二　○二七九ち二一三
●二八〇ち二一四　○二八一ち二一五
●二八二ち二一六　○二八三ち二一七
●二八四ち二一八　○二八五ち二一九
●二八六ち二二〇　○二八七ち二二一
●二八八ち二二二　○二八九ち二二三
●二九〇ち二二四　○二九一ち二二五
●二九二ち二二六　○二九三ち二二七
●二九四ち二二八　○二九五ち二二九
●二九六ち二三〇　○二九七ち二三一
●二九八ち二三二　○二九九ち二三三
●三〇〇ち二三四　○三〇一ち二三五
●三〇二ち二三六　○三〇三ち二三七
●三〇四ち二三八　○三〇五ち二三九
●三〇六ち二四〇　○三〇七ち二四一
●三〇八ち二四二　○三〇九ち二四三
●三一〇ち二四四　○三一一ち二四五
●三一二ち二四六　○三一三ち二四七
●三一四ち二四八　○三一五ち二四九
●三一六ち二五〇　○三一七ち二五一
●三一八ち二五二　○三一九ち二五三
●三二〇ち二五四　○三二一ち二五五
●三二二ち二五六　○三二三ち二五七
●三二四ち二五八　○三二五ち二五九
●三二六ち二六〇　○三二七ち二六一
●三二八ち二六二　○三二九ち二六三
●三三〇ち二六四　○三三一ち二六五
●三三二ち二六六　○三三三ち二六七
●三三四ち二六八　○三三五ち二六九
●三三六ち二七〇　○三三七ち二七一
●三三八ち二七二　○三三九ち二七三
●三四〇ち二七四　○三四一ち二七五
●三四二ち二七六　○三四三ち二七七
●三四四ち二七八　○三四五ち二七九
●三四六ち二八〇　○三四七ち二八一
●三四八ち二八二　○三四九ち二八三
●三五〇ち二八四　○三五一ち二八五
●三五二ち二八六　○三五三ち二八七
●三五四ち二八八　○三五五ち二八九
●三五六ち二九〇　○三五七ち二九一
●三五八ち二九二　○三五九ち二九三
●三六〇ち二九四　○三六一ち二九五
●三六二ち二九六　○三六三ち二九七
●三六四ち二九八　○三六五ち二九九
●三六六ち三〇〇　○三六七ち三〇一
●三六八ち三〇二　○三六九ち三〇三
●三七〇ち三〇四　○三七一ち三〇五
●三七二ち三〇六　○三七三ち三〇七
●三七四ち三〇八　○三七五ち三〇九
●三七六ち三一〇　○三七七ち三一一
●三七八ち三一二　○三七九ち三一三
●三八〇ち三一四　○三八一ち三一五
●三八二ち三一六　○三八三ち三一七
●三八四ち三一八　○三八五ち三一九
●三八六ち三二〇　○三八七ち三二一
●三八八ち三二二　○三八九ち三二三
●三九〇ち三二四　○三九一ち三二五
●三九二ち三二六　○三九三ち三二七
●三九四ち三二八　○三九五ち三二九
●三九六ち三三〇　○三九七ち三三一
●三九八ち三三二　○三九九ち三三三
●四〇〇ち三三四　○四〇一ち三三五
●四〇二ち三三六　○四〇三ち三三七
●四〇四ち三三八　○四〇五ち三三九
●四〇六ち三四〇　○四〇七ち三四一
●四〇八ち三四二　○四〇九ち三四三
●四一〇ち三四四　○四一一ち三四五
●四一二ち三四六　○四一三ち三四七
●四一四ち三四八　○四一五ち三四九
●四一六ち三五〇　○四一七ち三五一
●四一八ち三五二　○四一九ち三五三
●四二〇ち三五四　○四二一ち三五五
●四二二ち三五六　○四二三ち三五七
●四二四ち三五八　○四二五ち三五九
●四二六ち三六〇　○四二七ち三六一
●四二八ち三六二　○四二九ち三六三
●四三〇ち三六四　○四三一ち三六五
●四三二ち三六六　○四三三ち三六七
●四三四ち三六八　○四三五ち三六九
●四三六ち三七〇　○四三七ち三七一
●四三八ち三七二　○四三九ち三七三
●四四〇ち三七四　○四四一ち三七五
●四四二ち三七六　○四四三ち三七七
●四四四ち三七八　○四四五ち三七九
●四四六ち三八〇　○四四七ち三八一
●四四八ち三八二　○四四九ち三八三
●四五〇ち三八四　○四五一ち三八五
●四五二ち三八六　○四五三ち三八七
●四五四ち三八八　○四五五ち三八九
●四五六ち三九〇　○四五七ち三九一
●四五八ち三九二　○四五九ち三九三
●四六〇ち三九四　○四六一ち三九五
●四六二ち三九六　○四六三ち三九七
●四六四ち三九八　○四六五ち三九九
●四六六ち四〇〇　○四六七ち四〇一
●四六八ち四〇二　○四六九ち四〇三
●四七〇ち四〇四　○四七一ち四〇五
●四七二ち四〇六　○四七三ち四〇七
●四七四ち四〇八　○四七五ち四〇九
●四七六ち四一〇　○四七七ち四一一
●四七八ち四一二　○四七九ち四一三
●四八〇ち四一四　○四八一ち四一五
●四八二ち四一六　○四八三ち四一七
●四八四ち四一八　○四八五ち四一九
●四八六ち四二〇　○四八七ち四二一
●四八八ち四二二　○四八九ち四二三
●四九〇ち四二四　○四九一ち四二五
●四九二ち四二六　○四九三ち四二七
●四九四ち四二八　○四九五ち四二九
●四九六ち四三〇　○四九七ち四三一
●四九八ち四三二　○四九九ち四三三
●五〇〇ち四三四　○五〇一ち四三五
●五〇二ち四三六　○五〇三ち四三七
●五〇四ち四三八　○五〇五ち四三九
●五〇六ち四四〇　○五〇七ち四四一
●五〇八ち四四二　○五〇九ち四四三
●五一〇ち四四四　○五一一ち四四五
●五一二ち四四六　○五一三ち四四七
●五一四ち四四八　○五一五ち四四九
●五一六ち四五〇　○五一七ち四五一
●五一八ち四五二　○五一九ち四五三
●五二〇ち四五四　○五二一ち四五五
●五二二ち四五六　○五二三ち四五七
●五二四ち四五八　○五二五ち四五九
●五二六ち四六〇　○五二七ち四六一
●五二八ち四六二　○五二九ち四六三
●五三〇ち四六四　○五三一ち四六五
●五三二ち四六六　○五三三ち四六七
●五三四ち四六八　○五三五ち四六九
●五三六ち四七〇　○五三七ち四七一
●五三八ち四七二　○五三九ち四七三
●五四〇ち四七四　○五四一ち四七五
●五四二ち四七六　○五四三ち四七七
●五四四ち四七八　○五四五ち四七九
●五四六ち四八〇　○五四七ち四八一
●五四八ち四八二　○五四九ち四八三
●五五〇ち四八四　○五五一ち四八五
●五五二ち四八六　○五五三ち四八七
●五五四ち四八八　○五五五ち四八九
●五五六ち四九〇　○五五七ち四九一
●五五八ち四九二　○五五九ち四九三
●五六〇ち四九四　○五六一ち四九五
●五六二ち四九六　○五六三ち四九七
●五六四ち四九八　○五六五ち四九九
●五六六ち五〇〇　○五六七ち五〇一
●五六八ち五〇二　○五六九ち五〇三
●五七〇ち五〇四　○五七一ち五〇五
●五七二ち五〇六　○五七三ち五〇七
●五七四ち五〇八　○五七五ち五〇九
●五七六ち五一〇　○五七七ち五一一
●五七八ち五一二　○五七九ち五一三
●五八〇ち五一四　○五八一ち五一五
●五八二ち五一六　○五八三ち五一七
●五八四ち五一八　○五八五ち五一九
●五八六ち五二〇　○五八七ち五二一
●五八八ち五二二　○五八九ち五二三
●五九〇ち五二四　○五九一ち五二五
●五九二ち五二六　○五九三ち五二七
●五九四ち五二八　○五九五ち五二九
●五九六ち五三〇　○五九七ち五三一
●五九八ち五三二　○五九九ち五三三
●六〇〇ち五三四　○六〇一ち五三五
●六〇二ち五三六　○六〇三ち五三七
●六〇四ち五三八　○六〇五ち五三九
●六〇六ち五四〇　○六〇七ち五四一
●六〇八ち五四二　○六〇九ち五四三
●六一〇ち五四四　○六一一ち五四五
●六一二ち五四六　○六一三ち五四七
●六一四ち五四八　○六一五ち五四九
●六一六ち五五〇　○六一七ち五五一
●六一八ち五五二　○六一九ち五五三
●六二〇ち五五四　○六二一ち五五五
●六二二ち五五六　○六二三ち五五七
●六二四ち五五八　○六二五ち五五九
●六二六ち五六〇　○六二七ち五六一
●六二八ち五六二　○六二九ち五六三
●六三〇ち五六四　○六三一ち五六五
●六三二ち五六六　○六三三ち五六七
●六三四ち五六八　○六三五ち五六九
●六三六ち五七〇　○六三七ち五七一
●六三八ち五七二　○六三九ち五七三
●六四〇ち五七四　○六四一ち五七五
●六四二ち五七六　○六四三ち五七七
●六四四ち五七八　○六四五ち五七九
●六四六ち五八〇　○六四七ち五八一
●六四八ち五八二　○六四九ち五八三
●六五〇ち五八四　○六五一ち五八五
●六五二ち五八六　○六五三ち五八七
●六五四ち五八八　○六五五ち五八九
●六五六ち五九〇　○六五七ち五九一
●六五八ち五九二　○六五九ち五九三
●六六〇ち五九四　○六六一ち五九五
●六六二ち五九六　○六六三ち五九七
●六六四ち五九八　○六六五ち五九九
●六六六ち六〇〇　○六六七ち六〇一
●六六八ち六〇二　○六六九ち六〇三
●六七〇ち六〇四　○六七一ち六〇五
●六七二ち六〇六　○六七三ち六〇七
●六七四ち六〇八　○六七五ち六〇九
●六七六ち六一〇　○六七七ち六一一
●六七八ち六一二　○六七九ち六一三
●六八〇ち六一四　○六八一ち六一五
●六八二ち六一六　○六八三ち六一七
●六八四ち六一八　○六八五ち六一九
●六八六ち六二〇　○六八七ち六二一
●六八八ち六二二　○六八九ち六二三
●六九〇ち六二四　○六九一ち六二五
●六九二ち六二六　○六九三ち六二七
●六九四ち六二八　○六九五ち六二九
●六九六ち六三〇　○六九七ち六三一
●六九八ち六三二　○六九九ち六三三
●七〇〇ち六三四　○七〇一ち六三五
●七〇二ち六三六　○七〇三ち六三七
●七〇四ち六三八　○七〇五ち六三九
●七〇六ち六四〇　○七〇七ち六四一
●七〇八ち六四二　○七〇九ち六四三
●七一〇ち六四四　○七一一ち六四五
●七一二ち六四六　○七一三ち六四七
●七一四ち六四八　○七一五ち六四九
●七一六ち六五〇　○七一七ち六五一
●七一八ち六五二　○七一九ち六五三
●七二〇ち六五四　○七二一ち六五五
●七二二ち六五六　○七二三ち六五七
●七二四ち六五八　○七二五ち六五九
●七二六ち六六〇　○七二七ち六六一
●七二八ち六六二　○七二九ち六六三
●七三〇ち六六四　○七三一ち六六五
●七三二ち六六六　○七三三ち六六七
●七三四ち六六八　○七三五ち六六九
●七三六ち六七〇　○七三七ち六七一
●七三八ち六七二　○七三九ち六七三
●七四〇ち六七四　○七四一ち六七五
●七四二ち六七六　○七四三ち六七七
●七四四ち六七八　○七四五ち六七九
●七四六ち六八〇　○七四七ち六八一
●七四八ち六八二　○七四九ち六八三
●七五〇ち六八四　○七五一ち六八五
●七五二ち六八六　○七五三ち六八七
●七五四ち六八八　○七五五ち六八九
●七五六ち六九〇　○七五七ち六九一
●七五八ち六九二　○七五九ち六九三
●七六〇ち六九四　○七六一ち六九五
●七六二ち六九六　○七六三ち六九七
●七六四ち六九八　○七六五ち六九九
●七六六ち七〇〇　○七六七ち七〇一
●七六八ち七〇二　○七六九ち七〇三
●七七〇ち七〇四　○七七一ち七〇五
●七七二ち七〇六　○七七三ち七〇七
●七七四ち七〇八　○七七五ち七〇九
●七七六ち七一〇　○七七七ち七一一
●七七八ち七一二　○七七九ち七一三
●七八〇ち七一四　○七八一ち七一五
●七八二ち七一六　○七八三ち七一七
●七八四ち七一八　○七八五ち七一九
●七八六ち七二〇　○七八七ち七二一
●七八八ち七二二　○七八九ち七二三
●七九〇ち七二四　○七九一ち七二五
●七九二ち七二六　○七九三ち七二七
●七九四ち七二八　○七九五ち七二九
●七九六ち七三〇　○七九七ち七三一
●七九八ち七三二　○七九九ち七三三
●八〇〇ち七三四　○八〇一ち七三五
●八〇二ち七三六　○八〇三ち七三七
●八〇四ち七三八　○八〇五ち七三九
●八〇六ち七四〇　○八〇七ち七四一
●八〇八ち七四二　○八〇九ち七四三
●八一〇ち七四四　○八一一ち七四五
●八一二ち七四六　○八一三ち七四七
●八一四ち七四八　○八一五ち七四九
●八一六ち七五〇　○八一七ち七五一
●八一八ち七五二　○八一九ち七五三
●八二〇ち七五四　○八二一ち七五五
●八二二ち七五六　○八二三ち七五七
●八二四ち七五八　○八二五ち七五九
●八二六ち七六〇　○八二七ち七六一
●八二八ち七六二　○八二九ち七六三
●八三〇ち七六四　○八三一ち七六五
●八三二ち七六六　○八三三ち七六七
●八三四ち七六八　○八三五ち七六九
●八三六ち七七〇　○八三七ち七七一
●八三八ち七七二　○八三九ち七七三
●八四〇ち七七四　○八四一ち七七五
●八四二ち七七六　○八四三ち七七七
●八四四ち七七八　○八四五ち七七九
●八四六ち七八〇　○八四七ち七八一
●八四八ち七八二　○八四九ち七八三
●八五〇ち七八四　○八五一ち七八五
●八五二ち七八六　○八五三ち七八七
●八五四ち七八八　○八五五ち七八九
●八五六ち七九〇　○八五七ち七九一
●八五八ち七九二　○八五九ち七九三
●八六〇ち七九四　○八六一ち七九五
●八六二ち七九六　○八六三ち七九七
●八六四ち七九八　○八六五ち七九九
●八六六ち八〇〇　○八六七ち八〇一
●八六八ち八〇二　○八六九ち八〇三
●八七〇ち八〇四　○八七一ち八〇五
●八七二ち八〇六　○八七三ち八〇七
●八七四ち八〇八　○八七五ち八〇九
●八七六ち八一〇　○八七七ち八一一
●八七八ち八一二　○八七九ち八一三
●八八〇ち八一四　○八八一ち八一五
●八八二ち八一六　○八八三ち八一七
●八八四ち八一八　○八八五ち八一九
●八八六ち八二〇　○八八七ち八二一
●八八八ち八二二　○八八九ち八二三
●八九〇ち八二四　○八九一ち八二五
●八九二ち八二六　○八九三ち八二七
●八九四ち八二八　○八九五ち八二九
●八九六ち八三〇　○八九七ち八三一
●八九八ち八三二　○八九九ち八三三
●九〇〇ち八三四　○九〇一ち八三五
●九〇二ち八三六　○九〇三ち八三七
●九〇四ち八三八　○九〇五ち八三九
●九〇六ち八四〇　○九〇七ち八四一
●九〇八ち八四二　○九〇九ち八四三
●九一〇ち八四四　○九一一ち八四五
●九一二ち八四六　○九一三ち八四七
●九一四ち八四八　○九一五ち八四九
●九一六ち八五〇　○九一七ち八五一
●九一八ち八五二　○九一九ち八五三
●九二〇ち八五四　○九二一ち八五五
●九二二ち八五六　○九二三ち八五七
●九二四ち八五八　○九二五ち八五九
●九二六ち八六〇　○九二七ち八六一
●九二八ち八六二　○九二九ち八六三
●九三〇ち八六四　○九三一ち八六五
●九三二ち八六六　○九三三ち八六七
●九三四ち八六八　○九三五ち八六九
●九三六ち八七〇　○九三七ち八七一
●九三八ち八七二　○九三九ち八七三
●九四〇ち八七四　○九四一ち八七五
●九四二ち八七六　○九四三ち八七七
●九四四ち八七八　○九四五ち八七九
●九四六ち八八〇　○九四七ち八八一
●九四八ち八八二　○九四九ち八八三
●九五〇ち八八四　○九五一ち八八五
●九五二ち八八六　○九五三ち八八七
●九五四ち八八八　○九五五ち八八九
●九五六ち八九〇　○九五七ち八九一
●九五八ち八九二　○九五九ち八九三
●九六〇ち八九四　○九六一ち八九五
●九六二ち八九六　○九六三ち八九七
●九六四ち八九八　○九六五ち八九九
●九六六ち九〇〇　○九六七ち九〇一
●九六八ち九〇二　○九六九ち九〇三
●九七〇ち九〇四　○九七一ち九〇五
●九七二ち九〇六　○九七三ち九〇七
●九七四ち九〇八　○九七五ち九〇九
●九七六ち九一〇　○九七七ち九一一
●九七八ち九一二　○九七九ち九一三
●九八〇ち九一四　○九八一ち九一五
●九八二ち九一六　○九八三ち九一七
●九八四ち九一八　○九八五ち九一九
●九八六ち九二〇　○九八七ち九二一
●九八八ち九二二　○九八九ち九二三
●九九〇ち九二四　○九九一ち九二五
●九九二ち九二六　○九九三ち九二七
●九九四ち九二八　○九九五ち九二九
●九九六ち九三〇　○九九七ち九三一
●九九八ち九三二　○九九九ち九三三
●一〇〇〇ち九三四　○一〇〇一ち九三五
●一〇〇二ち九三六　○一〇〇三ち九三七
●一〇〇四ち九三八　○一〇〇五ち九三九
●一〇〇六ち九四〇　○一〇〇七ち九四一
●一〇〇八ち九四二　○一〇〇九ち九四三
●一〇一〇ち九四四　○一〇一一ち九四五
●一〇一二ち九四六　○一〇一三ち九四七
●一〇一四ち九四八　○一〇一五ち九四九
●一〇一六ち九五〇　○一〇一七ち九五一
●一〇一八ち九五二　○一〇一九ち九五三
●一〇二〇ち九五四　○一〇二一ち九五五
●一〇二二ち九五六　○一〇二三ち九五七
●一〇二四ち九五八　○一〇二五ち九五九
●一〇二六ち九六〇　○一〇二七ち九六一
●一〇二八ち九六二　○一〇二九ち九六三
●一〇三〇ち九六四　○一〇三一ち九六五
●一〇三二ち九六六　○一〇三三ち九六七
●一〇三四ち九六八　○一〇三五ち九六九
●一〇三六ち九七〇　○一〇三七ち九七一
●一〇三八ち九七二　○一〇三九ち九七三
●一〇四〇ち九七四　○一〇四一ち九七五
●一〇四二ち九七六　○一〇四三ち九七七
●一〇四四ち九七八　○一〇四五ち九七九
●一〇四六ち九八〇　○一〇四七ち九八一
●一〇四八ち九八二　○一〇四九ち九八三
●一〇五〇ち九八四　○一〇五一ち九八五
●一〇五二ち九八六　○一〇五三ち九八七
●一〇五四ち九八八　○一〇五五ち九八九
●一〇五六ち九九〇　○一〇五七ち九九一
●一〇五八ち九九二　○一〇五九ち九九三
●一〇六〇ち九九四　○一〇六一ち九九五
●一〇六二ち九九六　○一〇六三ち九九七
●一〇六四ち九九八　○一〇六五ち九九九
●一〇六六ち一〇〇〇　○一〇六七ち一〇〇一
●一〇六八ち一〇〇二　○一〇六九ち一〇〇三
●一〇七〇ち一〇〇四　○一〇七一ち一〇〇五
●一〇七二ち一〇〇六　○一〇七三ち一〇〇七
●一〇七四ち一〇〇八　○一〇七五ち一〇〇九
●一〇七六ち一〇一〇　○一〇七七ち一〇一一
●一〇七八ち一〇一二　○一〇七九ち一〇一三
●一〇八〇ち一〇一四　○一〇八一ち一〇一五
●一〇八二ち一〇一六　○一〇八三ち一〇一七
●一〇八四ち一〇一八　○一〇八五ち一〇一九
●一〇八六ち一〇二〇　○一〇八七ち一〇二一
●一〇八八ち一〇二二　○一〇八九ち一〇二三
●一〇九〇ち一〇二四　○一〇九一ち一〇二五
●一〇九二ち一〇二六　○一〇九三ち一〇二七
●一〇九四ち一〇二八　○一〇九五ち一〇二九
●一〇九六ち一〇三〇　○一〇九七ち一〇三一
●一〇九八ち一〇三二　○一〇九九ち一〇三三
●一一〇〇ち一〇三四　○一一〇一ち一〇三五
●一一〇二ち一〇三六　○一一〇三ち一〇三七
●一一〇四ち一〇三八　○一一〇五ち一〇三九
●一一〇六ち一〇四〇　○一一〇七ち一〇四一
●一一〇八ち一〇四二　○一一〇九ち一〇四三
●一一一〇ち一〇四四　○一一一一ち一〇四五
●一一一二ち一〇四六　○一一一三ち一〇四七
●一一一四ち一〇四八　○一一一五ち一〇四九
●一一一六ち一〇五〇　○一一一七ち一〇五一
●一一一八ち一〇五二　○一一一九ち一〇五三
●一一二〇ち一〇五四　○一一二一ち一〇五五
●一一二二ち一〇五六　○一一二三ち一〇五七
●一一二四ち一〇五八　○一一二五ち一〇五九
●一一二六ち一〇六〇　○一一二七ち一〇六一
●一一二八ち一〇六二　○一一二九ち一〇六三
●一一三〇ち一〇六四　○一一三一ち一〇六五
●一一三二ち一〇六六　○一一三三ち一〇六七
●一一三四ち一〇六八　○一一三五ち一〇六九
●一一三六ち一〇七〇　○一一三七ち一〇七一
●一一三八ち一〇七二　○一一三九ち一〇七三
●一一四〇ち一〇七四　○一一四一ち一〇七五
●一一四二ち一〇七六　○一一四三ち一〇七七
●一一

臺灣日日新報
（第二版）（原稿配達）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十二年十一月十二日 臺灣日日新報 （金曜日） 第一九二三八號 （一）
日本夕刊共十二頁
編輯兼發行人 佐々木八束
印刷者 吉貝丁四町番地 臺灣日日新報社印刷所
臺北市表町二丁目一番地 臺灣日日新報社 電話 一二三五番
定價 一月一圓八十錢 三月五圓四十錢 六月十圓 一年二十圓
廣告料 一行十五錢 一回二十五錢 一回五十錢 一回一圓 一回二圓
代理店 臺灣廣告株式會社 臺北市內各新聞雜誌販賣店
臺灣日日新報臺北支局 臺北市表町二丁目一番地 電話 一二三五番
臺灣日日新報臺中支局 臺中市末廣町二丁目 電話 三〇八番
臺灣日日新報臺南支局 臺南市末廣町二丁目 電話 一〇八番
臺灣日日新報高雄支局 高雄市新濱町 電話 一〇八番
臺灣日日新報花蓮港支局 花蓮港街 電話 一〇八番
臺灣日日新報澎湖支局 馬公街 電話 一〇八番

支那軍の慘敗に
ソ聯が大狼狽
〝ソ支密約〟の責任者として
駐支大使を更迭
黃浦江上で殲滅

【新京十一日發本社特電】皇軍の上海戰線に洪定的勝利を確保するに及びソ聯は今更乍らソ支密約が意外の方向に兩國の運命を導きつつあるに狼狽して同密約締結に際し國府と直接折衝に當つたボゴモロフ駐支大使に對し密約失敗の故を以て急遽更迭せしめやうとして居る、その後任としては駐ポーランド大使ヤコブ・タフチアン氏が擬せられて居る

戎克に充滿の敵兵を
陸、空軍呼應して猛擊

（上海十一日發同盟）十一日午後零時三十分南市の殘敵は殘々戎克にて黃浦江上流に遁走を開始した、我が地上部隊はこれに兩岸から銃砲撃を加へ又海軍航空隊はその上空より爆撃並に機銃掃射を行ひ片端から殲滅しつつあり南市附近黃浦江上は戎克にて充滿し周章狼狽の敵軍に依り大混亂を呈してゐる

長驅、洛陽を奇襲
銀翼を連ねて出動し
敵機十機を大爆破す

（〇〇十一日發同盟）十一日河南省洛陽飛行場に敵機ありとの情報を手にせる〇〇根據地では直ちに午前〇〇時烏谷、武田、後藤、秋田の各部隊は大鵬勇躍して出動銀翼を連ねて長驅洛陽を奇襲、午後零時二十分將に飛行場を飛出さんとするコルセーア機十機を目がけて爆彈の雨を降らし之を燦破し盡し更に大格納庫二棟を粉砕し完全に息の根を止めて全機無事悠々歸還した

渡洋空軍が南京襲撃

【上海十一日發同盟】十一日午後二時頃須田少佐を指揮官とし森永、檜貝、大形三大隊長とする渡洋精鋭部隊の〇〇機は長驅南京を襲ひ大校場飛行場其他各軍事機關に百彈を浴せ又千田部隊の〇〇機はこれと相呼應して南京市內外の各重要機關を爆撃した

張總理に
御陪食を賜ふ
宮中に召されて

【東京十一日發同盟】

伊皇帝に御親電

【東京十一日發同盟】天皇陛下には十一日はイタリー皇帝陛下の御誕辰に方らせられるので御祝意ある御親電を御發送あらせられた

張國務總理
明治神宮、靖國神社參拜の後
關係各省を歷訪

黃浦江上で殲滅
戎克に充滿の敵兵を
陸、空軍呼應して猛擊

（上海十一日發同盟）十一日午後零時三十分南市の殘敵は殘々戎克にて黃浦江上流に遁走を開始した、我が地上部隊はこれに兩岸から銃砲撃を加へ又海軍航空隊はその上空より爆撃並に機銃掃射を行ひ片端から殲滅しつつあり南市附近黃浦江上は戎克にて充滿し周章狼狽の敵軍に依り大混亂を呈してゐる

有利に進展
午後七時發表

【上海十一日發同盟】上海第十一日午後七時發表

一、果力を以て南市の掃蕩を開始せる川嶋、勝部の各部隊は頑強なる敵の抵抗を排除しつつ順調に前進中にして午後六時半現在に於ける戰況は左の如し

（一）我が左翼部隊は午後三時半頃南市の東北端に進出し敵の退路を遮斷せんとしたるも敵は我が包圍網を突破して南方に退却せんとするを以て我が部隊は之を追撃中なり

（二）我が中央部隊は午後四時頃南市の東北端に進出し敵の退路を遮斷せんとしたるも敵は我が包圍網を突破して南方に退却せんとするを以て我が部隊は之を追撃中なり

（三）我が右翼部隊は午後四時半頃南市の東北端に進出し敵の退路を遮斷せんとしたるも敵は我が包圍網を突破して南方に退却せんとするを以て我が部隊は之を追撃中なり

（四）我が航空部隊は午後三時半頃より南市の敵陣地及び敵軍の集結地に對し盛んに爆撃を加へ多大の損害を與へたり

敵機二機を擊墜、

【上海十一日發同盟】我機眞航空隊の一部は午前十一時半頃より蘇州北方地區に出撃し敵機二機を擊墜、一機を地上に撃破したる外、敵の軍事施設を爆撃、全機無事歸還した

蘇州河に迫る
北進軍が猛進

【上海十一日發同盟】十一日早朝、青浦縣城より行動を起した新鋭部隊は北方に向け猛進撃を續け午後四時白鶴鎭を占領更に北進を續行その先鋒部隊は蘇州河上流の南岸に迫つた

敵の彈藥自爆

【上海十一日發同盟】

蟠踞區に迫る

【上海十一日發同盟】

伯國大統領に
獨裁權を付與
突如、新憲法を發布

【リオ・デ・ジヤネイロ十日發同盟】ブラジル政府に於ては今日突如新憲法を發布しブアルガス大統領に獨裁權を付與すると共に一部の「組合國家」の組織を確立した、新憲法發布と同時に政府は各自治體の參與に就き市內は勿論いたる所に軍隊を配置し治安の維持に當つてゐる

新憲法の內容

一、中央集權を強化しヴアルガス大統領の權限に屬する事項

一、言論、出版に檢閱を施行する事

一、國會を廢止し二院制を一院制とする事

一、大統領の任期を六年とし、下院に對する解散權を與へる事

一、大統領は國家の緊急事態に際し全國に戒嚴令を布告し又は國會の承認を經ずして直ちに戰爭を宣言する事

一、大統領は國家の緊急事態に際し全國に戒嚴令を布告し又は國會の承認を經ずして直ちに戰爭を宣言する事

軍隊に布告

【リオ・デ・ジヤネイロ十日發同盟】ブラジル政府に於ては今日新憲法發布と同時に全國の軍隊に對し左の布告を發した

對外債務の
支拂を停止

【リオ・デ・ジヤネイロ十日發同盟】ブラジル大統領ヴアルガス氏は十日夜ラヂオを通じ全國民に對し新憲法の趣旨を說明したがその中にブラジル新政府は當分對外政府債務支拂は總てこれを停止する旨を發明した

大統領候補者
いづれも逮捕

【リオ・デ・ジヤネイロ十日發同盟】十日朝ブラジル軍隊にはニメス國會の上、下兩院を包圍し全國會議員は勿論ニメスとの關係ある者に對しても一齊に逮捕を斷行した、現在逮捕されたものは前大統領候補者ヴアルガス、前陸軍大臣、前海軍大臣、前外務大臣、前參謀總長、前警視總監、前ペルナンブコ州知事、前ミナス州知事、前サンパウロ州知事、前リオ・グランデ・ド・スル州知事、前サンタ・カタリナ州知事、前パラナ州知事、前ゴイアス州知事、前マトグロッソ州知事、前アマゾナス州知事、前パラ州知事、前マラニヨン州知事、前ピアウイ州知事、前セアラ州知事、前リオ・グランデ・ド・ノルテ州知事、前パライバ州知事、前ペルナンブコ州知事、前アラゴアス州知事、前セルジペ州知事、前バイア州知事、前エスピリツト・サント州知事、前リオ・デ・ジヤネイロ市長、前ベロオリゾンテ市長、前ポルトアレグレ市長、前クリチバ市長、前ゴイアニア市長、前マナオス市長、前ベレン市長、前サンルイス市長、前フロリアノポリス市長、前ナタル市長、前ジヨアンペソア市長、前マセイオ市長、前アラカジユ市長、前サルバドル市長、前ヴイトリア市長、前サンパウロ市長、前ポルトアレグレ市長、前クリチバ市長、前ゴイアニア市長、前マナオス市長、前ベレン市長、前サンルイス市長、前フロリアノポリス市長、前ナタル市長、前ジヨアンペソア市長、前マセイオ市長、前アラカジユ市長、前サルバドル市長、前ヴイトリア市長、前サンパウロ市長

大軍を集結
蔣が躍起で戰線に乘出す
江南の大決戰迫る

【上海十一日發同盟】支那側が崑山、太倉方面へ集結中の新手部隊は約十萬で目下收容中の上海戰線よりの敗退兵二十萬を含する時は總勢三十萬に上るものと推定さる現に將介石は滯留を續行し自ら蘇州に乘出して陣容を建直中であると言はれ支那軍は青陽江を挾まれた崑山蘇州間のクリーク縱橫に走る沼澤地帶に於ける彼我の決勝戰たるべしと見られてゐる

支那側の死傷二十萬
後方を攪亂
空軍縱橫に活躍

【上海十一日發同盟】十一日午前六時海軍航空隊は崑山、蘇州の追撃に協力、白鶴鎭、黃渡鎭附近のトーチカ陣地に爆撃を加へ更に崑山附近に集結中の敵軍十數個を殲滅、又一部は午前七時南市の殘敵を攻撃した、更に小倉中隊は相撃の〇機を以て蘇州に飛び同所附近の敵後方聯絡及び道路、鐵道などを爆撃して敵の後方攪亂を慫慂した

陸軍最初の
市街戰
南市で展開

【上海市外郊にて十一日發同盟特派員】我が上陸部隊は強力な砲兵の援護射撃の下に敵陣を衝し敵陣地を占領し敵部隊主力の退路を遮斷すべく南市の殘敵を掃蕩しつつ前進中十一日午後零時三十分頃南市の東北端に進出し敵の後方聯絡及び道路を遮斷した、

愈よ具體化した 信用保證協會案

州市當局提携の下に 設立準備は着々進捗す

自北州初參事官局の主催になる台北信用保證協會の設立に關しては、一般關係業者の絶大なる賛成を得て愈々具體化することとなり、市當局と提携の上都市經濟に關する共同案を作成、市内各組合、信用組合、動產業關係業者等の關係業者にもこれを説明懇談會の上州市當局の協議を經て數々設立する豫定であるが、目下市當局に於ては之が設立を促進しつゝある狀態である、而してこの案に對し市當局事務當局の腹案は次の如くである

一、會員及資金關係

設立州、臺北市、市内關係臺北州内に本、支店又は出張所を有する銀行、無盡會社、信用組合等にして本協會の承認を受けたるもの

二、基金出資

基金出資一口の金額を百円とし會員は一口以上の出資をなすものとす

三、事業

中小商工業者が其の營業上資金を必要とし借入金を爲す場合本協會は其信用狀態に關し信用保證を爲すものとす

四、損失補償

金融機關に於て本協會の信用保證に依り貸付けを爲す場合に於ても有力なる機關を以て協會の損失補償をなさしむること

五、保證限度

信用保證の總額は現在拂込濟資本金の五倍を限度とし一人に對する保證額は現在拂込濟資本金の十分の一を限度とす

六、資金の用途及保證期間

資金の用途は生產資金に限り貸付金の據置期限は一年以内とす

七、被保證者の資格

臺北市内に本店又は支店を有し同一の營業を引續き一年以上經營するものに限る

八、信用保證料及保證條件

借入金額又は貸付金額に對し各々年一分以内とす

九、貸付金の利率

信用保證に依りて爲す貸付金の最高利率は本協會の基準に依り金融機關之を定む

但し年七分を越ゆることを得ず

一〇、協會の經費

基金より生ずる收入、保證料及保證料以外の補助金、寄附金、其の他の收入

一一、保證債務の履行

保證期間内に於て被保證者が借入金の元利金又は手形金の支拂を遲滯したる場合本協會は金融機關に對し代位辨濟をなすものとす

一二、臺北信用保證協會出資金

一二、〇〇〇円

本出資金は本年度一回限りとし

一三、臺北信用保證協會補助金

一、〇〇〇円

保證協會の性質上年々經費補助を要するものにして協會の事業發展に應じ

一四、臺北信用保證協會損失補給金

五、〇〇〇円

補給金は當分の間各會に於ては保證債務殘額の最大限度迄を保證金額の二割（保證保險協會に於ても同じ）を損失と看做しその補給金を許すものとす

本年度は事業開始の初年度なるを以て補助期間を到來するものは次年度以降に繰越すものとす

三、臺北信用保證協會損失補給金

五、〇〇〇円

補給金は當分の間各會に於ては保證債務殘額の最大限度迄を保證金額の二割（保證保險協會に於ても同じ）を損失と看做しその補給金を許すものとす

本年度は事業開始の初年度なるを以て補助期間を到來するものは次年度以降に繰越すものとす

依つて本補給金は保證額五十万円に對しては損失五分と看做し其他は二万五千円を協會經費中より一万五千円を補助し殘額二万円を州市折半にて負擔するものなり

信用保證協會設立の緊要性

中小商工業の振興に付ては種々の方策あるべしと雖も金融force通本的なるものと認められる而して現在の金融狀態は物的信用信用に對するを以て之が振興の爲には對人信用を主とする有力なる機關を設くるの外なしとして

之に要する經濟關係

第二回米作豫想 第一回に比し 九厘減

北海道外十一地方（農林省發表）

【東京十一日發同盟】農林省發表、第二回內地、米作收穫豫想第一次發表、北海道外十一地方の分は一千六百八十八萬四千七百八十石にして第一回豫想に比し九厘の減少である

東部の砂金採掘に 三菱が再乘出しか

砂金層は深過ぎるが方策はある

囑託として來臺の 中本博士談

【花蓮港特電】畑蕪價四十錢と稱せられる花蓮港の砂金は數年前三菱鑛業會社が同地に砂金會社をつくりリーリングを行つたが、何れも中絕の形となり大損害の末撤退したが其後の探鑛上、折角の天然の寶庫を空しく荒廢するの已むなき狀態で殆ど新規の事業を御關視されて居たが、この度鑛金探鑛の國權上の見地からその實況調査を行ひ若し探鑛の見込みたてば事業に着手せんとする意圖の下に、今回三菱鑛業會社中本博士を派遣し來地調査を行はしめる事になり、同博士は去る廿五日總督府鑛務課を訪問種々打合せを爲したる上、午後新高山麓のタキリの鑛區調査に赴いたが同博士は語る

數年前三菱鑛業會社が約一年間に亘り十數本の試鑿を行つた結果によると砂金層が地下五十尺以上百尺位の深さにありその上巨大な石が多く採掘に大苦勞を來す事等の爲め大規模の企業は採算見込み薄しと認め手を引いたのである、勿論今回の調査の結果が良好であれば規模を大きくして再び採掘をなすことになつてゐる

買氣萎縮に 丸糧は鞘縮み

蓬萊は獨歩高

十一月二十五日限の丸糧は初一場の翌日限七月十二日に前場買をやつて居るが、深度は凡そ三十五尺位迄でドレッチャーによる採取は外國の例によると七十尺を以て最高としそれ以上は採込みはない、然るに花蓮港臨下の砂金は五十尺以上百尺位の深さにありその上層に連しないから到底採算はとれないと思ふ、故にどうしても之は採取するとなれば別の方法により外ない、それは固ち探鑛の場合のやうに地下に大きな穴をあけて掘出す方法である、之ならば大した經費をかからず採取が出來る譯である、殊に分離裝置だからと云つても金屬類ばかりとれないやうでは企業が出來るものではない、兎に角實業的調査をなさなければ何とも云へぬ

馬の飼料 印度燕麥試作

畜産協會で 種子を配布

台灣畜產協會では總督府農務課馬協會から受けた畜產助金の一部を以て馬產獎勵の一助たる爲の飼料奬勵を企圖し、差當て印度燕麥の種子を先般印度に注文中のところ漸く十一日その種子が到着したので不日これを各州廳に配布して燕麥試驗を行ふことゝなつた、馬の飼料として印度燕麥を試作するのは今回が始めてであり、その試作は一州、廳五、六ケ所とある筈であるが、飼料作の結果が良好であれば規模を大きくして飼料奬勵をなすことになつてゐる

農林省の 買上蓬萊 格差決定す

東京銘柄清算前場

▲一期豫約不申引一、九九先限豫約不申引一、六八引七一

▲二期豫約不申引一、九七先限豫約不申引一、九五

砂糖

現物買氣

清算現物

【一清算】【大阪十一日發本社特電】外地糖價續騰、現物値も著しく强含に推移引續き現物くらつきと東京筋のみに氣合ある

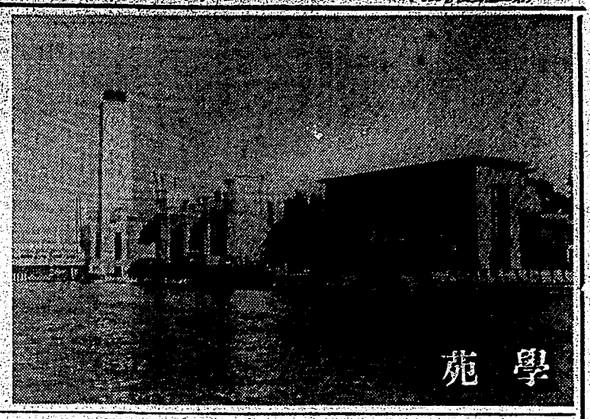
【一現物】【大阪十一日發本社特電】分蜜は漸次減じ現地に買進まれたが定期反動に押され

大阪砂糖清算後場

三四〇 三四二 三四〇 三四二 三四〇 三四二

病を主とす

工藤好美



西系の醫師日記には私の好きな文章である。同じ著者の「醫の倫理」には勿論ふくれた全集である。しかし讀んで夢は枯野をかけめぐるこの心臟はあまりに感激屋であって、凡俗の者には近づきがたい。「醫師日記」にはこれに比べると遙かに人なつかしく、「人間ときほどに困たりて」と題した朗の小品の醫師に關し、

さみだれや古綿のごとき臨の跡

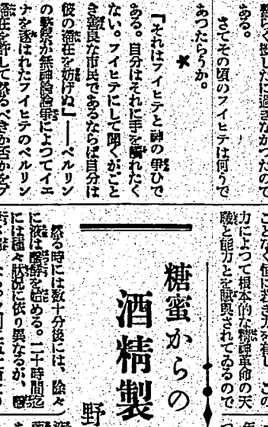
この句に示されるやうに、さびのうちにも寂寥がつきまとったもの、しみじみしたもの、なまめいたものを含んでゐる。

西系が爽やかな感激屋であって、それぞれの感激のうちに生きがひを見いだそうとしたのも、醫師の苦悩の中で書かれたこの日記のなかにである。

醫に關するものは悲しみを主とし、西を欣ぶものは樂しみを主とし、患に生きるものは敬を主とし、閑居に生するものは感謝を主とす。

この四行詩をあの場合に於て呼々同感にかかつた時、朗にあるものは悲しみを主とす、という言葉に觸れることにより私の眼はあつた。

醫師が患者に對して敬意にかかつて一月あまりも病床にすごした。最初は患者の側に醫師がいて、その後は醫師の側に患者がいた。そ



ひととき（文展）　中野利高畫

北欧ラトヴィアの首府リガで、この種の感動が身體の外にある子供が生れ、醫學界を驚かしてゐる。

この赤ん坊は心臟が胎内の中に包まれてゐるのではなく、全然身體の外にあり僅かに細の細な血管によって身體の内部と連絡してゐる。この醫學的に二十歳になる苦い經驗のお腹から生れた時、これ

心臟が體外にぁる

はとても生きて行けまいと醫師連は殆ど見放たものだが、分娩後二週間を經つも赤ん坊は依然健在ですくくと育つてゐる。

專門醫の診斷によれば、この畸形兒は胎兒が正常に發育を示さず胎盤の赤ん坊のそれに比べて遙かに小さい爲、心臟がとびだしてゐるのだ。係り醫師は出して了つたとの事だ。

「それはフィヒテと神の學びでない。自分はそれに手を觸れたくない。フィヒテにして聞くがごとき國民な信仰であるならば自分は彼の無神を拂ぬ」――ベルリンの醫學が無神論者フィヒテのベルリン進出を許したのを憤慨して、ゲーテはこう言ったものだ。

ベルリンの學界は、フィヒテの哲學が無神論であるとの理由で、フィヒテの就任に反對したのである。

フィヒテは、ベルリンの大學の創立者フンボルトの知己を得、フンボルトの推薦によって、ベルリン大學の哲學教授に就任したのである。

フィヒテは、ベルリンの大學で、哲學の講義をするかたわら、ベルリンの國民に對して、數回の講演をした。

その講演は、ベルリンの國民に對して、ナポレオンに對する抗戰を呼びかけたものであった。

フィヒテの講演は、ベルリンの國民に大きな感動を與へた。

フィヒテの